

2022年度さいたま支部年次総会と特別講演を開催

4月10日、コロナ禍第6波の中、Zoom 利用によるオンライン方式で支部総会を開催しました。白澤 埼玉県連合支部長、深瀬 川越支部長、新井 熊谷支部長、吉田 熊谷副支部長の4名の来賓のご出席をいただき、さいたま支部出席者8名にての支部総会となりました。

さいたま支部総会

14:00～14:50

白澤支部長より、埼玉県連合支部の活動報告及び2022年度の活動計画が示され、また本部の動きとして、学生就職支援活動の取り組みについて紹介がありました。

小西支部長から2021年度の活動報告および2022年度年度の活動計画が提案され、承認されました。

吉野財務委員長から2021年度決算報告及び長谷川会計監査から監査報告がなされ、さらに財務委員長から2022年度予算が提案され、ともに承認されました。

小西支部長から、さいたま支部会則の改訂について提案されました。主な追加・変更点は、さいたま支部該当区域を明記すること、顧問を役員から除くこと、支部活性化賛助金を2千円から千円に引き下げることです。原案通り承認されました。

また、国の個人情報保護法が改訂され個人情報取扱事業者の拡大で同窓会も適用の対象になったことから、「さいたま支部個人情報管理規程」が提案され、承認されました。

最後に、副支部長(財務委員長)が榎芳夫氏(42K)から井上勝己氏(修54L)に交代したことが報告されました。

特別講演

15:00～16:30

演題 : 『チェスの魅力』

講師 : 大竹 榮 氏 昭和54年電子工学科卒業 さいたま支部会員
今回埼玉県以外の連合支部・支部からの9名を含め参加者は22名となりました。

大竹さんは、2007年に国際通信チェス連盟のGM(グランドマスター:チェスの最高位のタイトル)を取得されています。

チェスのルール・駒の動き方、チェスと将棋との比較、チェスの歴史、チェスの組織やタイトルなど多岐にわたり講演いただきました。チェスと将棋には共通点もあることからか、大山康晴名人をはじめ、最近では羽生善治二冠まで、多くの棋士がチェスの勝負をされており、やはり将棋界とチェスはつながりが深いようです。

チェスには、対面チェスのみならず、PC やスマホを使ったネット対局、葉書、電子メール、WEB を使った通信チェス、コンピュータ対局などいろいろな対局・楽しみ方があるとのことで、科学技術の進歩とともに、楽しみ方も幅が広がり進化していると感じました。

チェスとは

- 世界195ヶ国以上で愛好されているボード・ゲーム
- ゲームであると共にスポーツ 芸術、科学である
- 8 x 8、64 枞の市松模様のボードを使用
- 先手（白）、後手（黒）共6種類 16個の駒を使用
- 駒は、キング、クイーン、ルック ビショップ、ナイト、ポーン
- 将棋と異なり取った駒は使えない。取った駒が使えるのは日本の将棋のみ
- 将棋より単純に見えるが、違った奥深さがある



初期配置（右下は必ず白）



アナログ・チェスクロック



講師の大竹さん

Copyright © Sakae Ohtake

3



(さいたま支部長 小西憲二 修 49C 記)